

生駒聖天 —現生利益を求め、人々の信仰集める—

宝山寺中興の祖・湛海律師は延宝6(1678)年10月10日、生駒山に入り般若窟に登った。仏像の造頭、堂宇の建立もそこに、延宝8(1680)年正月27日、菜畑の村人の協力で建てられた仮本堂で、八万枚護摩供の前行を開白、4月5日早朝より8日の昼にかけて八万枚を焚き終えた。この供は3日3晩、火の前に座り続ける苦行であったが、これ以降八十八歳で示寂するまで十萬枚護摩供二十七度、八千枚六十七度、慈救呪百三十億遍という行を積んだ。八千枚護摩会式は、湛海律師の遺徳を偲び、また国家安泰、五穀豊穡、万民豊楽を祈り歴代山主により引き継がれ、毎年4月1日に厳修される。大矢實圓・生駒山宝山寺第19代山主=写真右。



本尊は不動明王で、鎮守神として聖天堂には大聖歡喜天が祀られる。商売の神として大坂商人の信仰を集め、賑わった。日本三大聖天に数えられ、生駒の聖天さんと呼ばれて親しまれている。



宝山寺を信仰する生駒市高山の上武建設グループ創業者・上武勝宣会長。約60年、毎月欠かさず参拝を続けている。



生駒山 寶山寺

コロナを越えて!

文化伝統担い、地域社会支える

“奈良人”

特集 No.9

奈良の強さ(魅力)は連綿とした歴史であり、そこには積み重ねられた人々の日常や暮らしがある。その中で文化や芸術が生まれ、今に息づく。それを支える「人」とその仕事にスポットを当てるとともに、コロナ禍にあっても負けずに地域や社会、経済を支え続ける奈良ゆかりの人々のメッセージをシリーズで紹介する。

初心を忘れず、地域とお客様を大切にする目配りと気配り コロナ禍でも志しを共有し、未来を見据え社員一同邁進する



▲今春、上武建設に入社した新入社員6名と上武会長(中央)ら。上武会長の意志を受け継ぎ、同社、そして地域の未来を担っていく

私は「会社がどうすればよくなるのか」を常日頃から考え、そのために社員との対話を大切にしています。食事会、社員旅行ほか社内イベントを実施し、社員全員との交流の機会を積極的に創出してきました。しかし、新型コロナウイルスの影響によりすべてが中止になってしまっているのが現状です。私も含め社員の私生活にも多くの規制がかかり、それぞれがストレスや不安を抱える中ではあります。感染防止のため社員の家族のごとも考え、マスクの配布等できる限りのことに取り組んでいます。今は社員全員が集まることは叶いませんが、「どうすれば経営者と社員、或いは現場と事務所の社員同士が交流を深め、業務に生かしていただけるか」皆で意見を話し合っています。そして、互いが助け合い、思いを一つにすることでより良い会社になると確信しています。コロナ収束の際は、再び様々な企画を展開していきたいと願っています。

「初心を忘れず、地域とお客様を大切に」目配り、気配りをして、足元を固め、地に足を付けて大きく未来へはばたく。私の想いのすべてです。私は生駒市高山生まれ、創業以前より宝山寺に月詣りを行い、すべての平穩を祈願しています。いつも心掛けている、地域を大切に、周囲への感謝の気持ちと目配り、気配りは社員へも共有しています。経営者と社員は一つ、私は命ある限り、社員とその家族を守るために身を粉にして頑張っています。今後も社員一同、将来を見据え、創業60周年を目指して社業に邁進してまいります。

上武建設グループ



創業者
上武 勝宣

地球にやさしく 未来につながる土台造り

Earth-friendly groundwork,
Which will be sustained into the future.

上武建設は、創業以来培った技術力と最新のICT建機を駆使し、日本でも最先端を行く重機土工事の専門業者として、今後も初心を忘れることなく、新しい時代を切り開きます。

KAMITAKE
上武建設グループ

<http://www.kamitakekensetsu.co.jp/>

エブリディドローン



当社では、ドローンによる空中からの3D測量、ペイロード(積込量・運搬量が計測される機能を備えた油圧ショベル・重ダンプ)による正確に数値化された進捗管理など大手メーカーと情報共有をしながら「ICT施工」を、全国でもいち早く実践投入し、積極的な取り組みを行っています。